



手話奉仕員や手話通訳者の養成講座で使われているテキスト。全国共通の教科書を使っている

いくことも大事ですね。例えば入門者の講座などではどんなことをやっているんですか。

堀米 体験講座は、あいさつや自己紹介など、すぐにでも覚えてもらえる簡単な内容です。「ありがとう」という単語一つでも37万の高崎市民に覚えていただけたら、うれしいことですよ。聴覚障害者としては社会の中に参加しやすくなりますよ。

羽鳥 手話の単語は、日常生活の中の動きを取り入れて作られているものが多いので、覚えやすいと思います。あと表情や体の動きも大切なので、慣れない人には、ちょっとと気恥ずかしいようです。若い人たちは逆にそれがカッコイイと。

市長 そうですか。若い人たちを含めて、最近では手話を学ぼうという人も増えていますよね。

長井 手話サークルに入ってくれる人も増えていますよ。市内では5つのサークルで170人ぐらいだった



高崎市聴覚障害者協会理事長。聴覚障害者の社会的地位向上のために尽力。保渡田町在住

高崎市手話サークル連絡会会長代理。同僚にろう者がいたことで、手話を身に付けた。棟高町在住

手話通訳者。高崎市手話通訳者連絡会会長。手話奉仕員養成講座に興味を持ち、手話を学ぶ。玉村町在住

障害のある人もない人も、市民一人一人が安心して暮らせるまちをつくりたいと考えている

聞こえる人も聞こえない人も安心して暮らせるまちに



市は、手話が言葉であるとの理解と普及を目的として、昨年4月に手話言語条例を制定しました。これまで市では、手話奉仕員養成講座の開催や手話通訳者の派遣などに取り組んでいますが、今後さらに手話を使いやすいための環境づくりが必要です。今回は聴覚に障害のある人、手話通訳者として活躍されている人、手話サークルの代表をお迎えし、それぞれの立場からお話を伺います。

会員が、今年に入って増えてきて、現在は220人います。

市長 女性会員は多くいますか？

長井 8、9割は女性です。皆さん頑張つてやってくれていますよ。

市長 やはり女性は活動的ですからね。お茶会を兼ねるなど、新しい人たちも入ってきやすい、気軽な雰囲気をつくると良いかもしれませんね。

いざという時に頼りになる 無くてはならない手話通訳者

長井 最近では会員に、特別支援学校の先生や、介護、医療関係の人たちも増えていますね。

市長 なるほど。例えば聴覚に障害のある人が医療機関を受診する場合などはどうしているんですか。

堀米 基本的には手話通訳者の派遣をお願いします。やむを得ない場合には筆談です。

市長 緊急の時に筆談というのは大変ですね。

羽鳥 そうなんです。なので救急病院や警察には、手話通訳者の名簿を預けて対応してもらっています。

堀米 市内で登録をしている手話通訳者は50人いますが、実際に活動できる人は10人以下です。やはり手話通訳者を介したコミュニケーションはとても大切なので、通訳者が増えと増えるといいんですが。

羽鳥 私も同じ思いです。若い人たちに目指してほしいですね。

手話を使う立場から見える 新たな気付き

市長 最近ではテレビなどでも手話を見る機会が増え、昔に比べると一般的になったように感じます。今日お集まりいただいた皆さんと市議会の方々のご努力もあり、昨年、本市でも手話の理解と普及を進めていこうと高崎市手話言語条例が制定されました。市民の皆さんに手話の大切さをご理解いただくことはとても大事なことでと思います。堀米さんは聴覚に障害をお持ちですが、普段の生活ではどんなことに苦労されていますか。

堀米 そうですね。今の社会では、聴覚から入る情報が主体となっています。以前、私が電車に乗っていたときに、途中で止まってしまったことがありました。アナウンスで状況が説明されたんですが、私たちにはそうした情報が入ってこないのです。非常に不安になりますね。

羽鳥 筆談で状況を教えてもらいたくても、そんな時は皆さんがパニック状態なので、お願いできないという話も聞きましたね。

市長 聴覚に障害がある人かどうか、周りの人も一見分からないでしょうしね。例えば災害時の避難勧告や避難指示も聴覚障害のある方への対応まではしきれないのが現状です。そういうお話を伺って初め

市長 現在、手話通訳者になるための上級講座を開催できないかと市でも検討しているところです。講座の受講者に通訳の協力者として登録してもらおうような制度にできたらいい。謝礼についてもきちんと考える必要がありますね。職業として考えると、通訳者の現状はいかがですか。

羽鳥 正規職員として雇用されている例は全国でも少ないです。身分保障などがしっかりしていないと、若い人たちにとって職業としては考えづらいですね。

市長 私は、例えばボランティアだから何でも無償という考え方は疑問です。志はボランティアでも必要なサービスを提供したら適切な対価を受けられるようにしないと、制度としても安定しないと思うんですよ。せっかくなので努力をして通訳者になるんですから。

堀米 手話を使う人たちの中には、視覚、あるいは知的な障害を併せ持つ聴覚障害者もいます。こうした人たちにしても、手話が使えないかな環境づくりを私たちも考えていかなければと思っています。

それぞれの思いをカタチに 今後の高崎のまちに期待

市長 その他市民の皆さんに知ってほしいことなどはありますか？

堀米 一つでも二つでもいいので手話を覚えてもらいたいですね。例え



対談には、手話通訳者が同席。通訳を介することで、対談がスムーズに進みました。和やかな雰囲気の中で話が盛り上がりました

手の動きや表情で伝える手話 さらに広がる手話の輪

市長 手話サークルの活動に尽力されている長井さんは、職場に耳の聞こえない人がいたのをきっかけに手話を始めたというお話が。

長井 そうですね。職場で、ある一人のろう者に出会ったのがきっかけです。仕事や朝礼の内容を伝えられるように手話を始めました。週に1度くらい朝礼で手話教室をやったこともありましたね。

市長 手話を広めるためには、やはり地域の中で学べる機会を増やして

ば店員さんに「ありがとう」と手話で伝えてもらえるだけでも私たちはうれしく感じますよ。

長井 スポーツイベントなどでも手話サークルの会員がお手伝いしていますが、サークルの存在自体をもっとPRしていきたいですね。

羽鳥 もっと多くの人たちに親しみを感じてもらえるよう「手話奉仕員養成講座」などの名称も柔らかい雰囲気に変えていきたいですね。あとは、やはり手話通訳者を目指している人たちが増えてほしいです。

市長 手話言語条例が制定され、一歩一歩、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと思えます。今後ともご協力ください。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

